

図書だよい 第8号

令和7年12月19日 発行

兵庫県立飾磨工業高等学校 全日制 図書部



いよいよ今年も残り少なくなりました。2025年は皆さんにとってどんな年だったでしょう？1年次生は高校生になって初めての冬休みです。冬休みは短いですがイベント事が多く浮かがれがちですが、しっかり生活習慣を整えて、楽しい年末年始を迎えてください。3年次生の多くは学生生活最後の冬休みになります。悔いの残らないように、就職に向けての準備をしましょう。



冬季休業中の図書館について

冬休み期間は図書室を閉館します。

休館期間

2025.12.23 (火) ~2026.1.7 (水)

冬休み前の貸出冊数は 3冊まで です。

返却日は 2026年1月9日（金） です。

新着図書の紹介



一次元の挿し木（松下龍之介・宝島社）

ヒマラヤ山中で発掘された二百年前の人骨。大学院で遺伝人類学を学ぶ悠がDNA鑑定にかけると、四年前に失踪した妹のものと一致した。不可解な鑑定結果を担当教授の岩見崎に相談しようとした矢先、岩見崎は何者かに殺害された。古人骨を発掘した調査員も襲われ、研究室から古人骨も盗まれた。悠は妹の生死と、古人骨のDNAの真相を突き止めらべく動き出しが、予想もつかない大きな企みに巻き込まれていく・・・。

おススメ本の紹介



図書委員さんや本好きの人が教えてくれたおススメ本を紹介！

一瞬を生きる君を、僕は永遠に忘れない。（冬野夜空）

星のように輝きたいという女子高校生と、その彼女の最期までを写真に収めたい男子高校生との2ヵ月間のストーリーです。

この小説を読んで、一日一日をもっと大切に生きていこうと思えたし、命の尊さについて考えられたり出来た本なので、皆さんにも読んでみてほしいおススメの小説です！！

（3-4 中塚靖菜）



そして誰もいなくなった（アガサ・クリスティ）

正体不明の招待主によって孤島に集められた面識のない男女10人が、童謡の歌詞通り一人ずつ殺されていくミステリー小説で、犯人が誰で、なぜ殺されるのかが焦点となる、アガサ・クリスティの代表作です。島に残されたのは10人の過去の罪を告発する謎の声と、一人死ぬごとに数が減っていく兵隊人形のみ。孤島という閉鎖空間で、自分たちの中にいる犯人に殺される恐怖と、誰が犯人かわからない絶望が描かれています。

（1-2 甲斐飛鳥）



アンドロイドは電気羊の夢を見るか（フィリップ・K. ディック）

この作品を読んで「人間らしさって何なのか？」を改めて考えさせられました。アンドロイドは機械のはずなのに、作中では人間よりも冷静だったり、優しいところもあって、本当に機械と人間の差があるのか分からなくなりました。特に主人公がアンドロイドを処分することにだんだん迷い始めるところが印象に残りました。今のAIの問題にも繋がっている気がして、昔の作品なのにすごく現実的だと思いました。

（3-2 加賀政次郎）



図書室からのお願い

先日、長期間に渡り本を返却していない人に向けて返却依頼の用紙をお渡ししたと思いますが、その後、誰も返却に来ません。該当の生徒は至急返却してください！

紛失した、既に返却した、という方は図書室まで申し出てください。